

幼保小の連携・接続に関する調査 2024 概要版

令和4年度から始まった文部科学省「幼保小の架け橋プログラム」においては、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて連携・協働し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る重要性が指摘されています。

横浜市では、幼保小の交流や連携、接続期カリキュラム等の実施状況等を把握するため、市内の保育園、幼稚園、認定こども園と、小学校を対象とした実態調査を毎年実施しています。今後の皆様のお取組の参考にしていただけるよう、概要版を作成しましたので、ぜひご参照ください。

調査にご協力いただいた幼児教育施設及び学校数

	令和 6 年度		
	全体数	提出数	回収率
公立保育園	56	56	100%
私立保育園	813	302	37%
幼稚園	220	94	43%
認定こども園	67	32	47%
小学校・義務教育学校	337	337	100%
合 計	1493	821	55%

調査担当

幼稚園・認定こども園・保育園 … こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当
 小学校・義務教育学校 … 教育委員会事務局 小中学校企画課

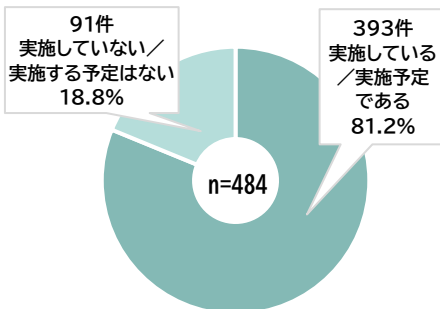
報告書編集・発行

こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当 671—3731

【カリキュラム・交流活動・連携活動の実施率】

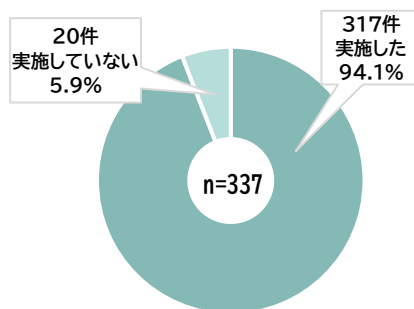
幼児教育施設編

アプローチカリキュラムの実施状況



小学校編

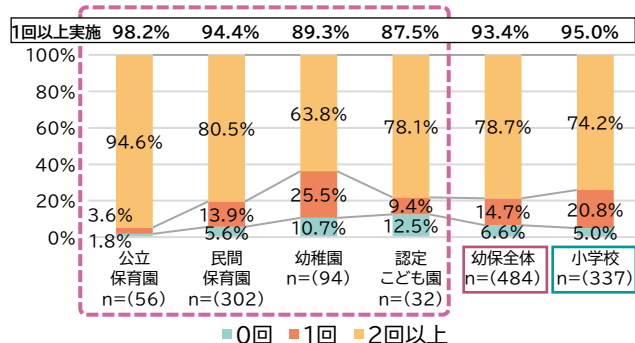
スタートカリキュラムの実施状況



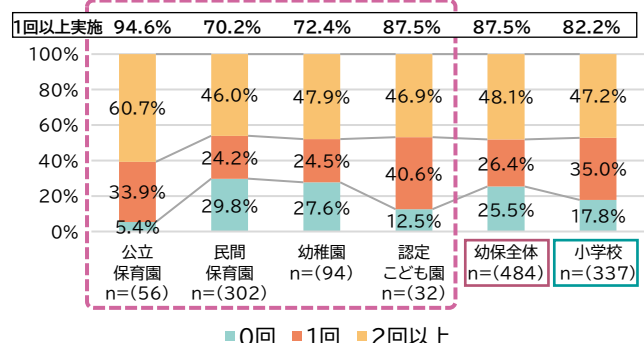
カリキュラム実施のこの4年間の経過をみると、幼保小ともに令和5年度まで大きく増加し8割以上が実施しています。ただ、令和6年度は、全施設種で減少傾向がみられます。

また、交流活動、連携活動の実施は、ともに増加傾向をみせ、交流活動は、幼児教育施設全体、小学校ともに9割以上、交流活動も8割以上となっています。

子どもどうしの交流活動 実施率



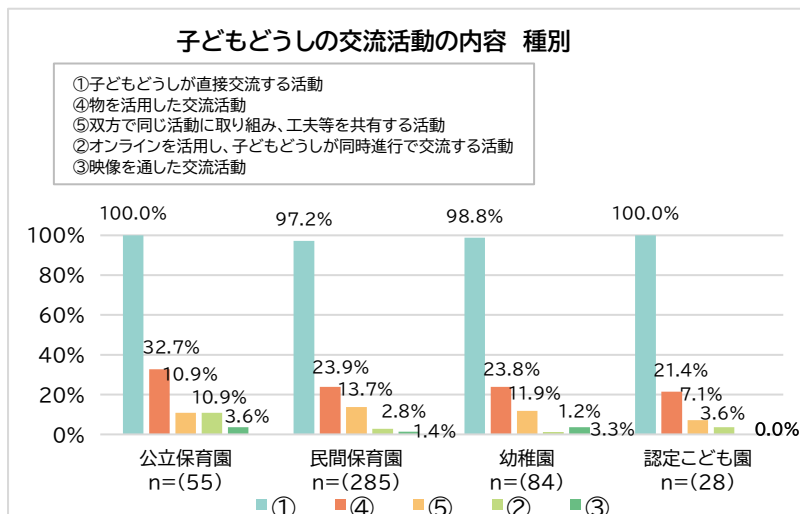
大人どうしの連携活動 実施率



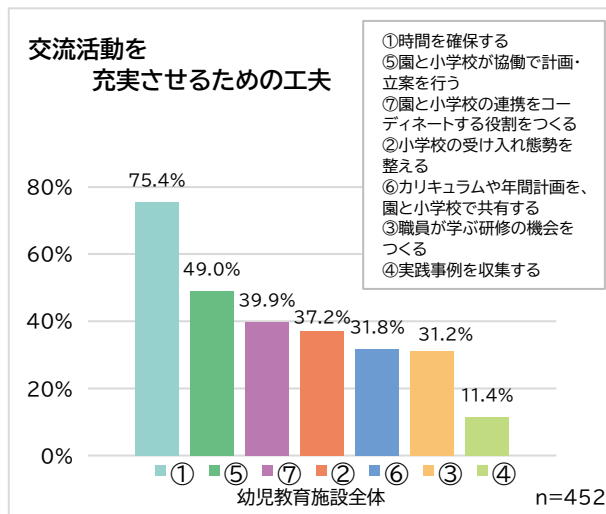
幼児教育施設編【子どもどうしの“交流活動”の実施について】

交流活動を実施した	452 園	交流活動を実施していない	32 園
-----------	-------	--------------	------

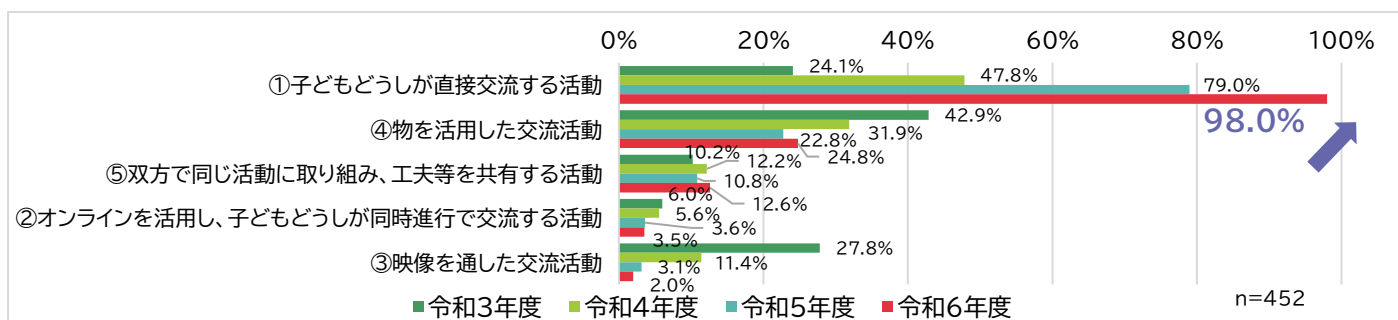
【子どもどうしの交流活動の内容】 実施内容



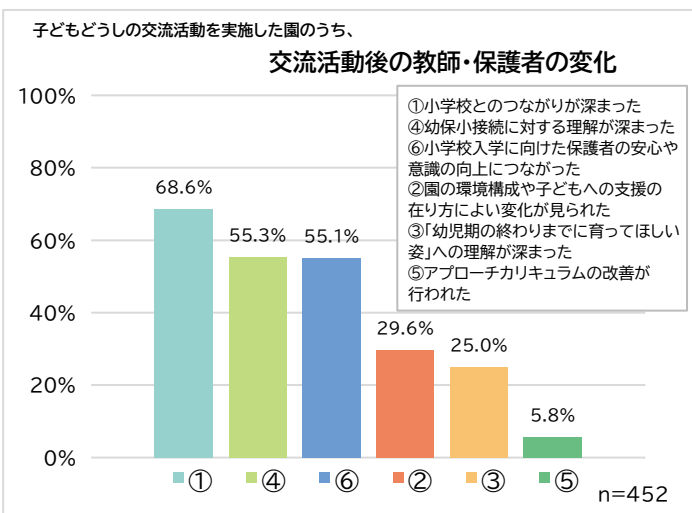
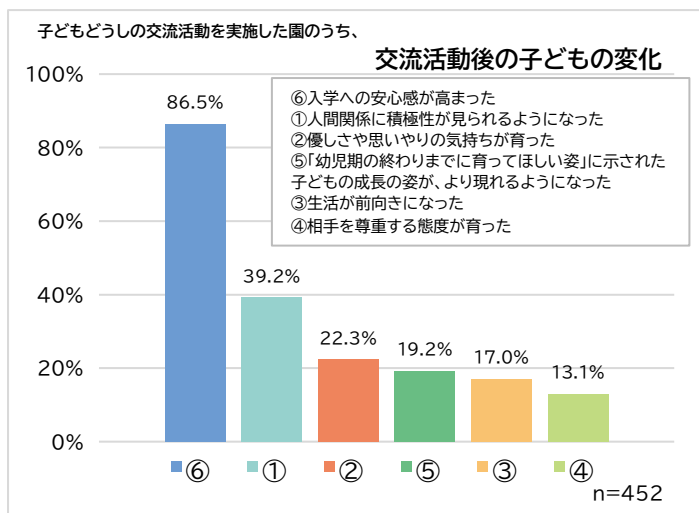
充実させるための工夫



【子どもどうしの交流活動の内容】 経年比較



交流活動による変化



交流活動の実施内容は、令和3年度や令和4年度と比較して、ビデオレター等の映像や、オンラインを活用した交流活動の割合が減少した一方で、子どもどうしが直接交流する活動の割合は100%近くまで高まりました。

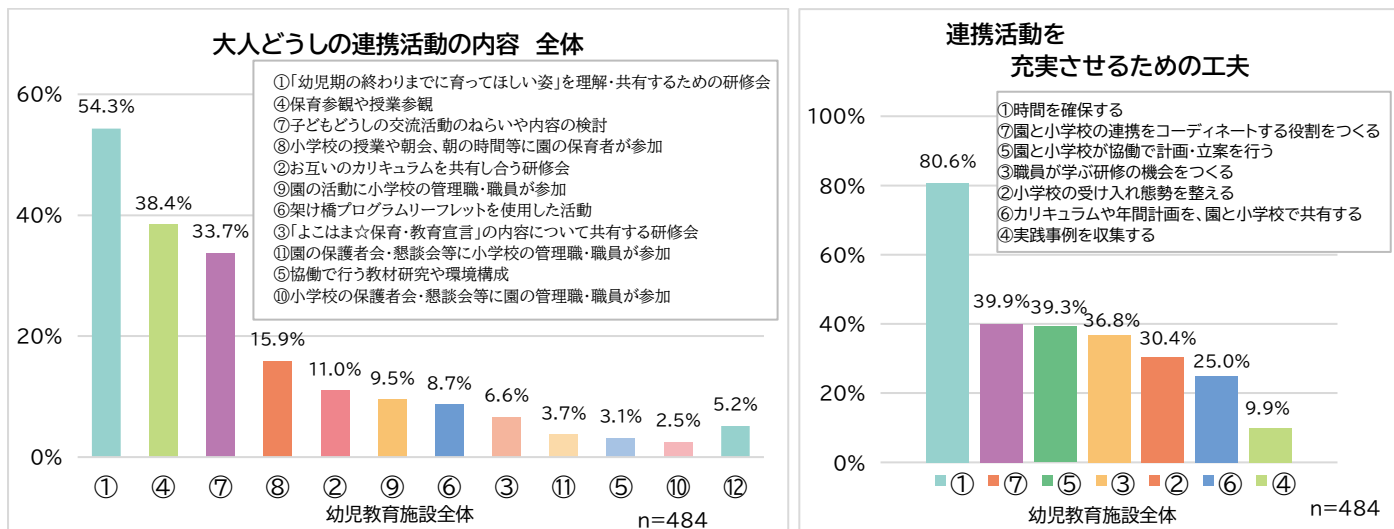
充実させるための工夫は、「時間を確保する」を挙げる園が75.4%で最も多く、次いで、園と小学校の協働や連携が挙げられています。

交流活動を行った園のうち、86.5%の園が子どもたちの安心感が高まったと回答しました。また、半数以上が保護者の安心や意識の向上、幼保小接続の理解の深まりを感じています。68.6%の園は、小学校とのつながりが深まったと回答しました。

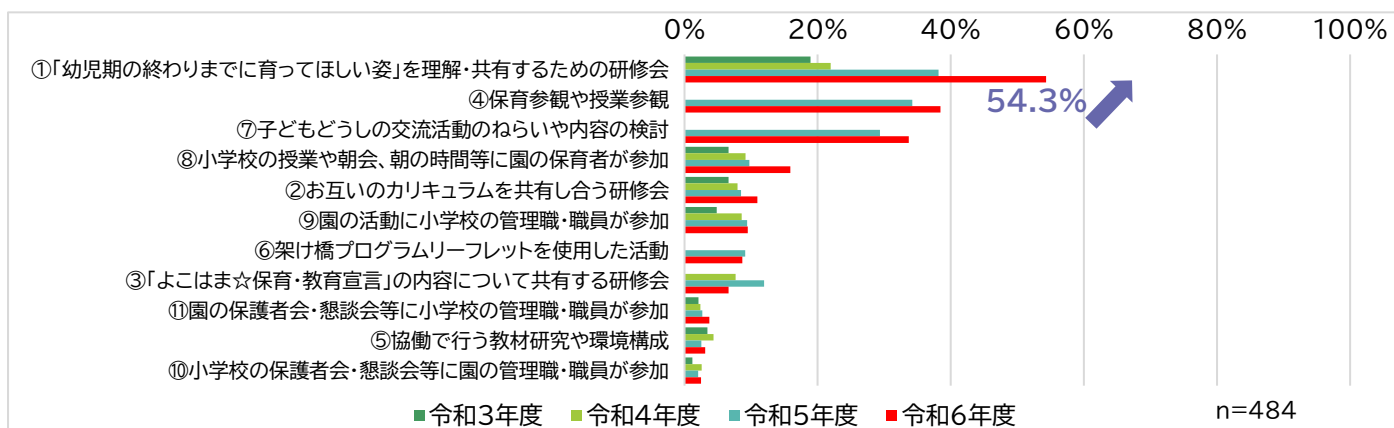
幼児教育施設編【大人どうしの“連携活動”の実施について】

連携活動を実施した	361 園	連携活動を実施していない	123 園
-----------	-------	--------------	-------

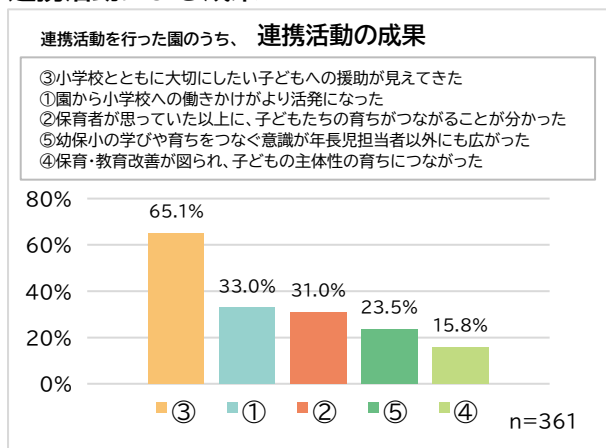
【大人どうしの連携活動の実施について】実施内容



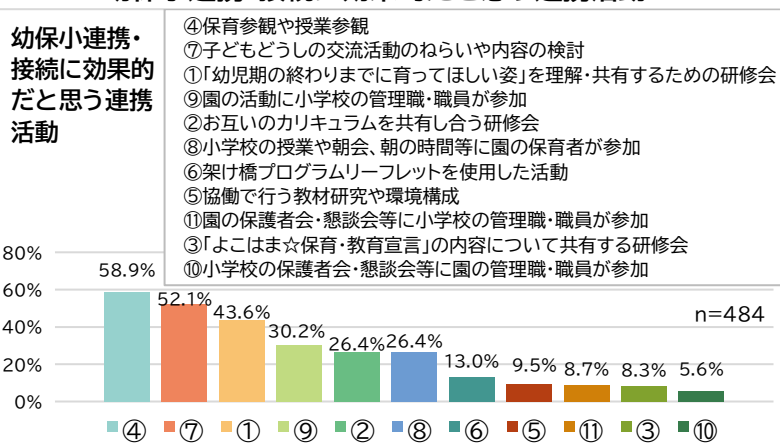
【大人どうしの連携活動の実施について】経年比較



連携活動による成果



幼保小連携・接続に効果的だと思う連携活動

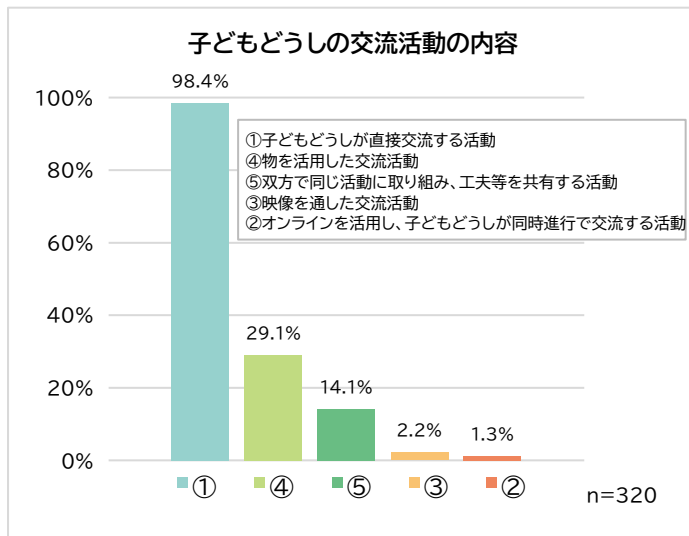


「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する研修会、子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討、小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加を行った園は、大きく増加しており、効果的だと思う項目に挙げられる割合も高くなっています。充実させるための工夫は、交流活動と同様に「時間を確保する」が 80.6%で最も多く、次いで「園と小学校の連携をコーディネートする役割をつくる」は 39.9%で、交流活動でも同率で挙げられています。連携活動による成果として、「小学校とともに大切にしたい子どもへの援助が見えてきた」が6割以上と嬉しい成果が報告されています。

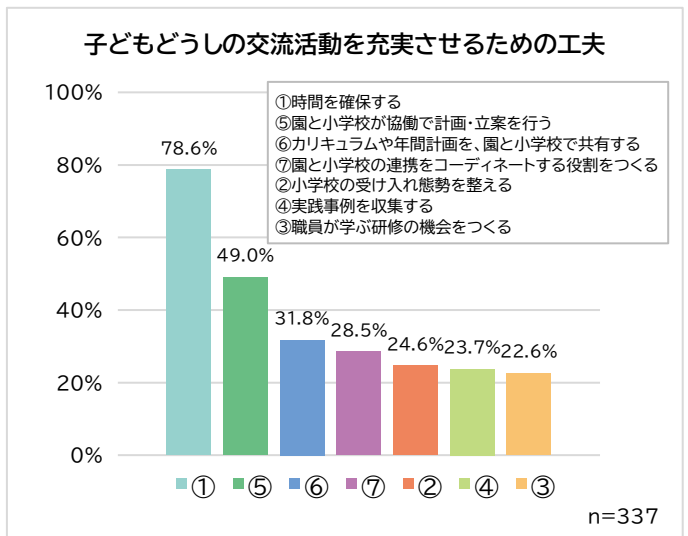
小学校編【子どもどうしの“交流活動”の実施について】

交流活動を実施した	320 校	交流活動を実施していない	17 校
-----------	-------	--------------	------

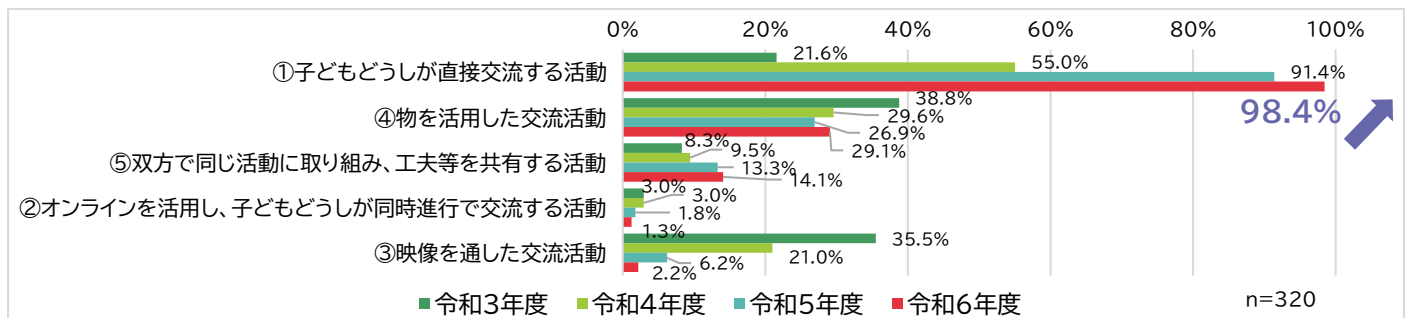
【子どもどうしの交流活動の実施について】 実施内容



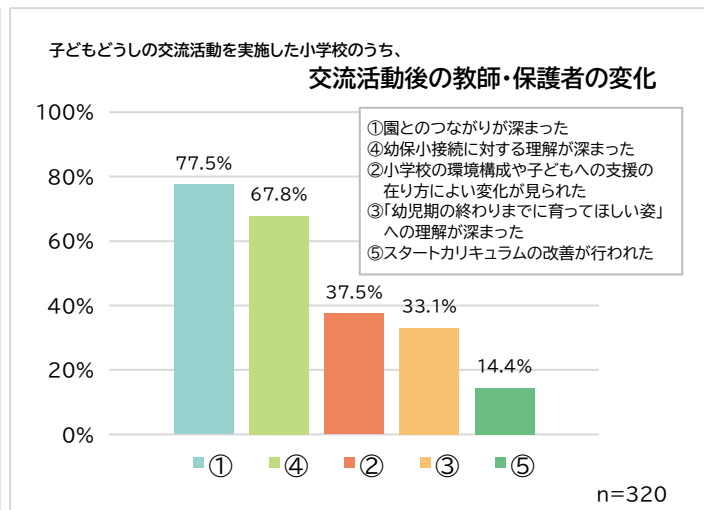
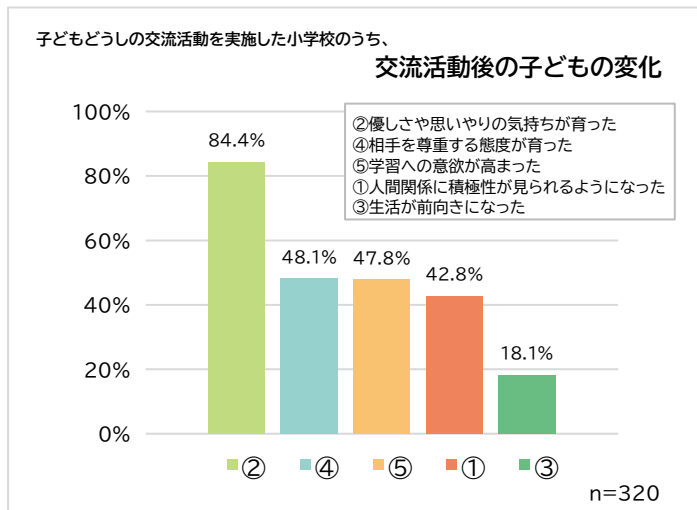
実施内容充実させるための工夫



【子どもどうしの交流活動の実施について】 経年比較



【子どもどうしの交流活動の実施について】 交流活動による変化



交流活動の実施内容は、令和3年度以降と比較して、幼児教育施設と同様に子どもどうしが直接交流する活動の割合が高まり、100%近くまで高まりました。

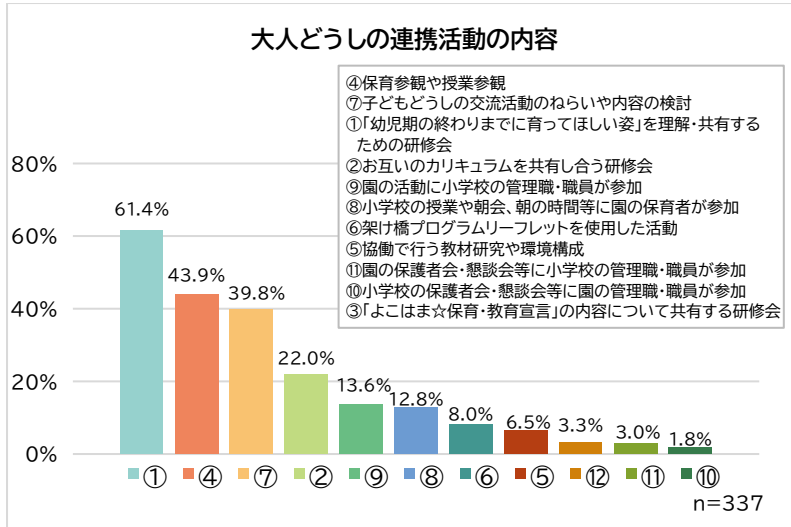
充実させるための工夫も幼児教育施設と同様の傾向で、「時間を確保する」を挙げる園が78.6%で最も多く、次いで、園と小学校の協働や連携が挙げられています。

交流活動を行った学校のうち、84.4%の学校が優しさや思いやりの気持ちが育ったと回答しました。また、77.5%の学校は園とのつながりが深まった、67.8%の学校は幼保小接続に対する理解が深まったと回答しました。

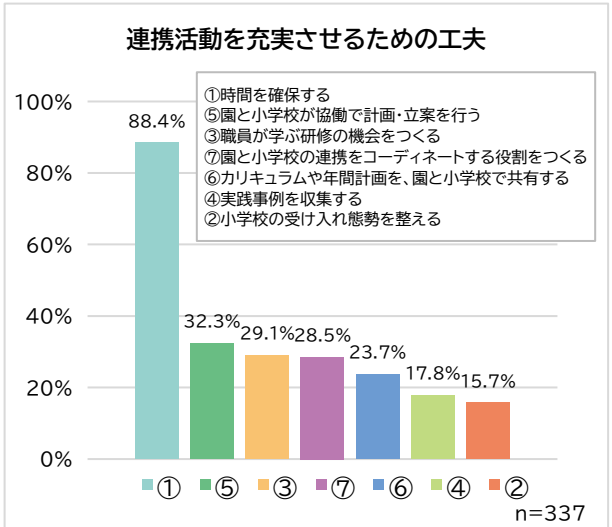
小学校編【大人どうしの“連携活動”の実施について】

連携活動を実施した	277 校	連携活動を実施していない	60 校
-----------	-------	--------------	------

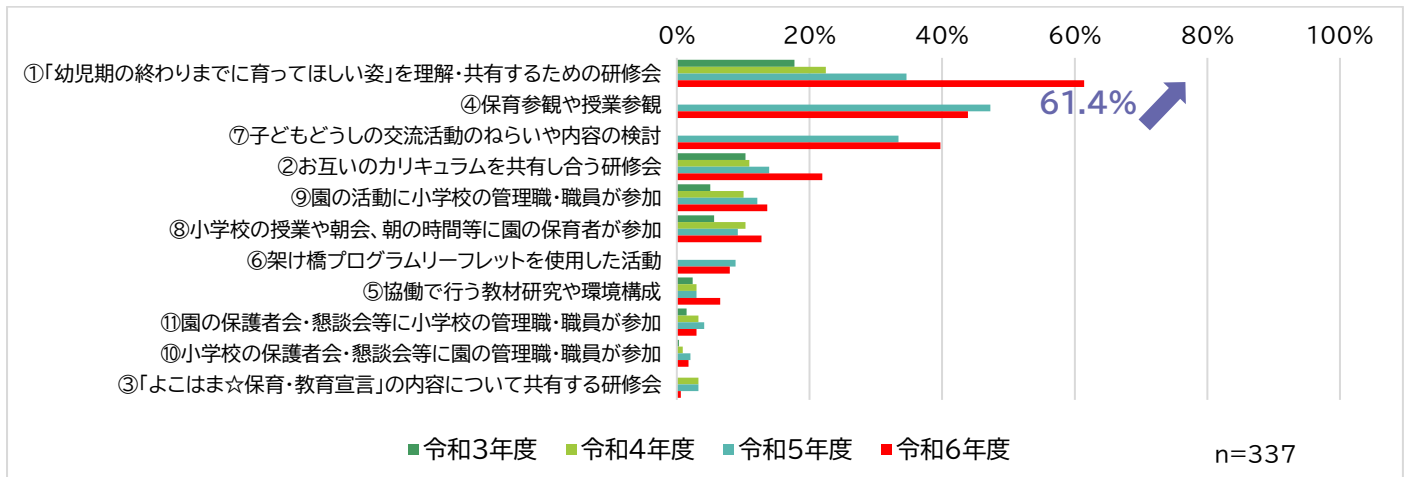
【大人どうしの連携活動の内容】実施内容



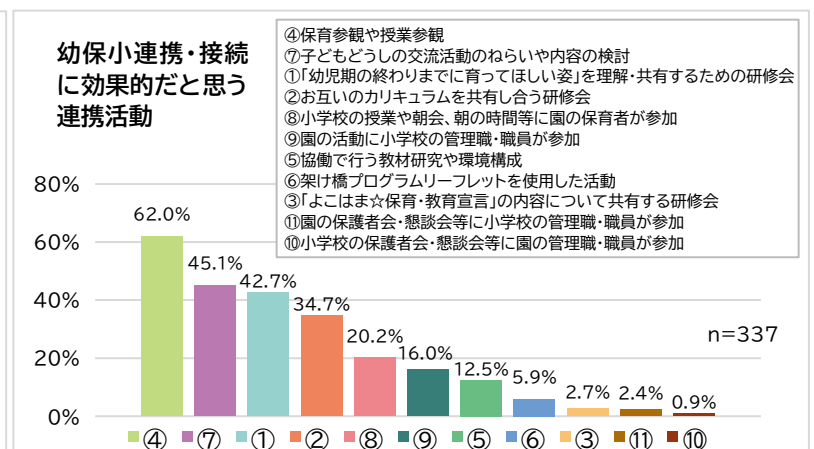
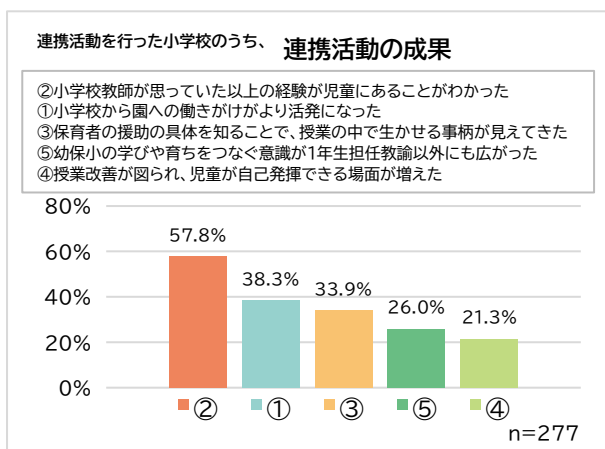
充実させるための工夫



【大人どうしの連携活動の実施について】経年比較



連携活動による成果



大切にしたい取組として注目されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する研修会と、子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討を行った園は、大きく増加しており、効果的だと思う連携活動の上位に挙げられています。充実させるための工夫は、交流活動と同様に「時間を確保する」が88.4%で最も多く挙げられています。連携活動による成果として、「小学校教師が思っていた以上の経験が児童にあることがわかった」が57.8%で前年度より大きく増加し、嬉しい成果が報告されています。